

竹原管内景況調査

6月の景況DIは、製造業は好転、非製造業は悪化

当所では、地域商工業者の景況並びに経済動向等に関する情報の収集・分析を行っています。今号では、令和7年6月に実施しました調査結果がまとまりましたので、ご報告いたします。

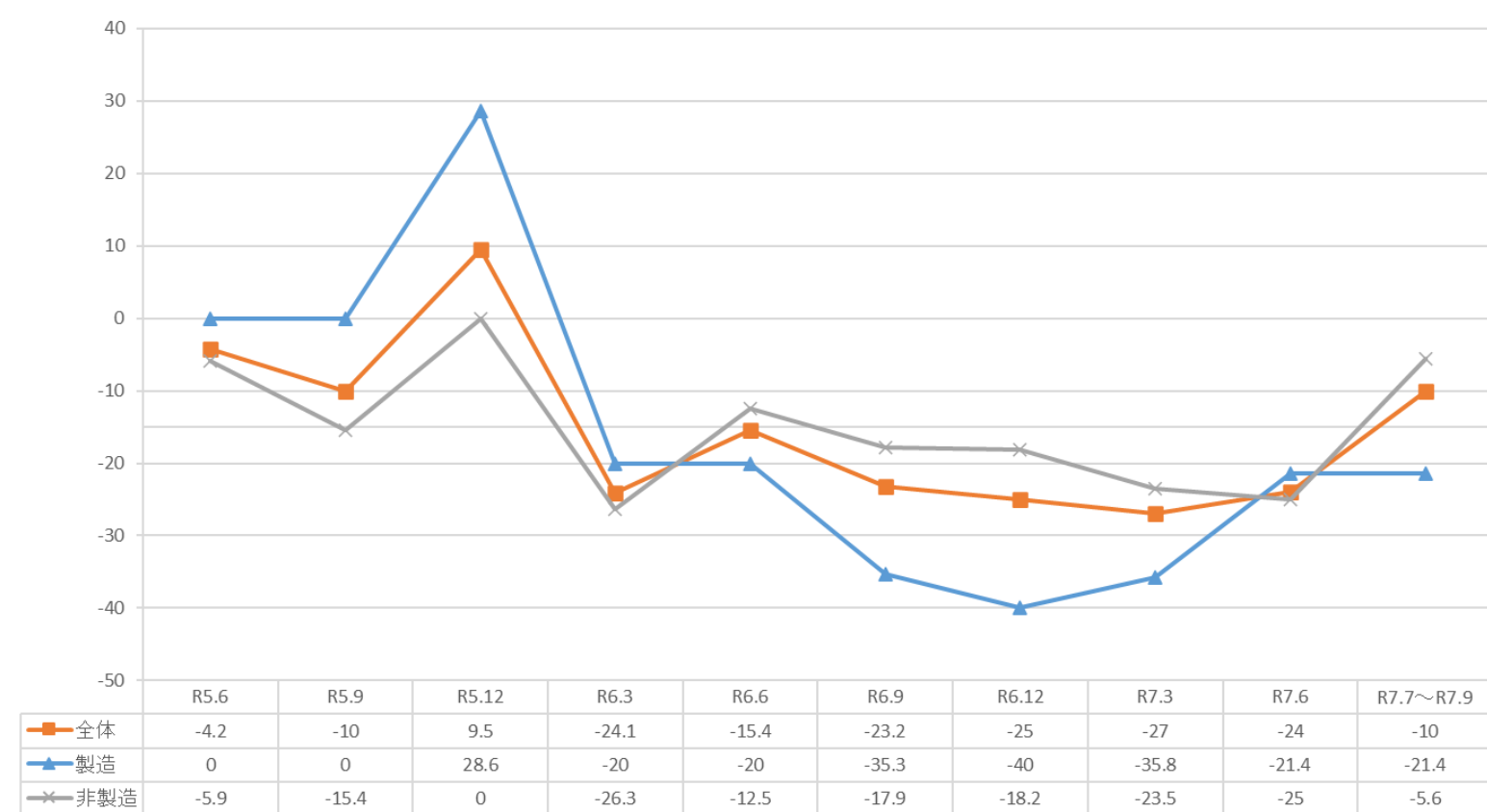
【調査時期】
四半期毎に調査(年4回実施)
【調査期間】
令和7年6月
【調査対象】
当所会員

回答状況

産業	対象事業所	回答数
製造	18	14
建設	8	7
小売	18	16
サービス	17	13
合計	61	50

●全産業におけるDI値

景況DIの推移



6月の景況DI数値は、前回調査と比べて製造業は14.4ポイント好転、非製造業は1.5ポイント悪化しました。
6月と比べて7月～9月までの見通しは、全体では、14.0ポイント好転しています。

※DI(ディフュージョン・インデックス)は、各調査項目についての判断の状況を示します。

ゼロ基準として、プラス値は景気の上向き傾向(「良い」)をあらわす回答の割合が多いことを示し、マイナス値(▲)は景気の下向き傾向(「悪い」)をあらわす回答の割合が多いことを示します。

●景況が好転(悪化)した理由について

- ・物価高の影響で、贅沢品である日本酒の売上は、業界全体で下降することが予測されるが、弊社は、横ばいで推移する見込みを立てている。(日本酒)
- ・アメリカの関税対策により、若干の影響を受けている。(精密機械)
- ・国際情勢の悪化、トランプ関税による影響は今のところ顕著にはあらわれていない。(精密機械)
- ・民間工事で新規で受注し、完成したが、粗利が極端に悪かったため今期に影響する。(建設業)
- ・業界の技術職が不足しているため、受注は増えているが利益につながりにくい。(建築工事)
- ・コロナ禍後の生活様式の変化。飲食業でのアルコール消費減少。(酒屋)
- ・原材料が高騰しているが、価格転嫁がなかなか難しい。物価高騰による買い控え。(菓子店)
- ・仕入れ価格は、上昇しているが、その分客単価をあげる努力をした。(メガネ)
- ・昨年同月は人手不足が深刻化し宴会の大口案件などの受入れが困難だったが派遣スタッフやタイミーなどの人材紹介などを活用して人員確保し予約受入れの分母を増やしたことで、売上増収に繋がった。また、食材原価の見直しや仕入れ先を多角化し経費削減にも注力した。(ホテル)

●トランプ関税の影響等、業界動向について

- ・世界経済の低迷につながると、国内外含めて需要の低下が見込まれるため、危機感を抱いている。(日本酒)
- ・材料や車両価格に反映されれば、物価高騰が続く、利益率は下がると思われる。(建築工事)
- ・特に影響がないと思われる。(ホームセンター)
- ・外国米の輸入が増えることになり、大型店が有利になる。(米店)
- ・カナダ、メキシコからの輸入品に対する25%の関税が導入されたことで厨房機器や設備の価格上昇、アボガドなどメキシコからの食材・飲料の価格高騰によりホテルの利益率が圧迫され、宿泊料金やレストランの価格に転嫁せざるを得ない状況になる可能性がある。また、企業の出張予算の削減により、ビジネス需要の減少も予測。高級ホテルよりもコストパフォーマンスの高い宿泊施設へのシフトにより中価格帯のホテルが価格競争にさらされることが予想される。(ホテル)

(※アンケート全体から一部抜粋しています。)